令和六年度　学力検査問題

# 国語

（九時二十五分～十時十五分〈五十分間〉）

| 受検番号 | 第　　番 |
|---|---|

## 注意

1　解答用紙について

(1)　解答用紙は一枚で、問題用紙にはさんであります。

(2)　係の先生の指示に従って、所定の欄二か所に受検番号を書きなさい。

(3)　答えはすべて解答用紙のきめられたところに、はっきりと書きなさい。

(4)　解答用紙は切りはなしてはいけません。

(5)　解答用紙の※印は集計のためのもので、解答には関係ありません。

2　問題用紙について

(1)　表紙の所定の欄に受検番号を書きなさい。

(2)　問題は全部で五問あり、表紙を除いて十四ページです。

○　印刷のはっきりしないところは、手をあげて係の先生に聞きなさい。

**1** 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（26点）

中学一年生の安藤真宙は、サッカー部が部員不足でなくなってしまい、サッカーを続けることができなくなる。他に入りたいと思う部活がひとつもない真宙は、ある日の帰り道、同級生の中井天音から、理科部へ誘われる。天音の話を聞きながら歩いていると、校庭で機械を運ぶ高校生たちの姿が目に入る。その様子を見ていた真宙は、高校生の中に小学校のサッカーチームの先輩、柳数生を見つけ、久しぶりに言葉を交わす。

「あの、すみません！」

天音が、隣で声を上げた。

「皆さん、何をしてるんですか？」

いきなり大きな声を上げた年下の女子に、柳くんが「へ？」と呟く。すると、答えを待たずに彼女が聞いた。

「ひょっとして、ウチュウセンの観測ですか？」

今度は真宙が「へ？」と思う番だった。ウチュウセン――。頭の中に飛行船のように細長い機体の「宇宙船」がイメージされる。

①中井、何言ってんの？　と当惑して、思わず空を見上げる。だけど、何も確認できない。驚いたのはその後だ。こっちを見ていた柳くんが「おー！」と嬉しそうに声を張り上げたのだ。

「そうそう。宇宙線クラブ。知ってるの？」

「知ってます。じゃ、あれが検出器ですか？」

「うん。そう、仙台の大学から借りたやつ。」

「すごい！　初めて見ます。結構大きいんですね。」

盛り上がる二人を眺めながら――だけど、真宙はちんぷんかんぷんだ。水を差すようで気が引けたけど、「あのー。」と話しかける。

「ウチュウセンクラブって、なんですか。」

「あ、ひょっとして『船』の字の方、連想した？　宇宙船。だったら、オレと同じだー。」

柳くんが軽やかな口調で言う。真宙が「はあ。」と呟くと、柳くんが、仲間の方を振り返る。

「『船』じゃなくて、ラインの『線』の字の方で、宇宙線。宇宙に飛び回ってる、粒子のことをそう呼ぶの。光くらいの速さで、地球にもたくさん降り注いでるんだけど、まあ、そういうのがあるんだよね。知ってた？」

「え、知らない。」

柳くんは「だよなー。」と軽く応じる。

「肉眼じゃ見えないけど、存在してるんだって。で、専用の検出器を使うと、それが検出できて、そこからいろんなデータを取ることができる。仙台にある大学が、その解析に特に熱心に取り組んでて、そこの教授が作ってるのが、宇宙線クラブっていう共同活動。」

柳くんが、まるでそこに宇宙線が見えるみたいに空を見上げる。

「宇宙線観測って、本当に一度にたくさんデータが取れるから、学校ごとに、みんな、それぞれ違うこと調べて研究してる。」

「柳くんたちはその宇宙線を観測して、なんの研究してるの？」

今度は真宙が聞いた。

何気なく聞いただけのつもりが、柳くんの顔つきが明確に変わった。

「え？　うーん。」

腕組みをして長く黙り込んだ後で、「えっとね。」と前置きをして説明してくれる。
「こんな説明だと、顧問や先輩たちから厳密には違うって怒られそうだけど、建物を間に挟むことで、宇宙線が受ける影響について調べてる。高い建物と低い建物だとデータがどう違うかとか、木造とコンクリートだとどうか、とか。」
「へえ……。」
「もっとわかりやすく言うと――どう言ったらいいかな、えーと。」
「なんかすみません。オレ、理解できもしないのに、気軽に聞いちゃって。」
「いや、わかるように説明できないオレが未熟なんだ。ごめん。」
真宙は驚いた。未熟、と自分のことを言う柳くんが、言葉と裏腹にとても大人に思えたのだ。
天音が尋ねる。
「皆さんは、高校の部で活動してるんですか？　理科部とか。」
「物理部だよ。」
柳くんが答える。真宙は、えっと目を見開いた。柳くんが何かを気負う様子もなく、淡々とした声で続ける。
「主に物理と、あとは宇宙に関することをやるのが、うちの部。」
「柳くん。」
「ん？」
「陸上部は？」
思わず聞いていた。柳くんがびっくりしたように真宙を見つめ返す。②真宙の中で、体温がすっと下がっていく感覚がする。
「あー。」
柳くんが呟いた。また、平淡な声だった。
「チームのコーチとかに聞いた？　オレがサッカーやめてから、中学で陸上やってたこと。」
「足が速くて、スカウトされたって……。」
「まあ、よく言えば。だけど、中学で入ったサッカーのクラブチームが本当に強くてさ。オレじゃレギュラーになれる見込みがまったくなかったし、だから、陸上に行ったっていう方が正しいけど。」
自分がショックを受けていることに、真宙は気づいた。目の前の、柳くんの顔を見ながら、だけど、視界の一部がチカチカ点滅しているようだ。
小学校時代しか知らないけど、柳くんは、すごくサッカーがうまかった。練習や試合でプレーを見て、あんなふうになりたいと憧れた。
だけど、そんな柳くんが中学じゃ通用しなかったのか。真宙の動揺に気づかない様子で、柳くんが続ける。
「陸上もさ、うちの高校は運動部って、レベル高いんだ。試合に出られる見込みないからって、高校でやめたヤツも結構いる。ただ、もちろん続けるヤツもいるし、そこは人それぞれ。」
「柳くんはどうなの。」
「え？」
「どうして物理部なの？」
陸上でも、柳くんにはなんらかの挫折があったのだろうか。真宙が知る世界の中では一番のスター。柳くんがスポーツの世界から離れてしまうなんて、想像もできなかった。
なんでオレが、ショック受けてるんだろう。柳くんに、オレは、どんなことを期待していたのか。柳くんが高校で文化系の部に所属していることが、どうしてこんなにショックなのかわからない。柳くん、あきらめちゃったのか――。
だけど、柳くんが「あ、オレ？」と自分の顔を指さす。あっけらかんと続けた。

「オレは、楽しいから。」
言葉に詰まった。あまりに柳くんが自然な言い方をしたからだ。
「中学までスポーツしかしてこなかったし、これまで興味なかったからこそ、こういうのもいいかなって思って。うちの部、歴代、人工衛星作ってるんだけどさ。」
「ええっ！　人工衛星って個人が作れるものなんですか？」
天音が興奮したようにフェンスに手をかけ、がしゃりと網目がたわむ音がした。柳くんが笑う。
「そう思うでしょ？　アメリカとか海外の学生が作った人工衛星が、かなりの数、軌道に乗ってたりするし、日本の宇宙線クラブのメンバーがいる学校でも、作ってるところはあるはず。」
「羨ましいです。」
天音の言葉に、柳くんがさらに嬉しそうに微笑(ほほえ)む。
「オレたちも先輩から受け継いだのを十年計画くらいで完成目指してる感じ。」
「物理って、〇点か百点の世界だって、聞きます。」
天音が尋ねる。
「私はまだ中学生だから物理、習ってないですけど、物理って、得意な人は全問正解できるくらい理解できて、だけど逆に、そういうセンスがない人は、一問もわからなくてまったく太刀打ちできない世界なんだって聞いたことがあります。だから、皆さん、すごい。」
「え、そんなこともないよ。オレ、選択科目で物理、取ってないし。」
え……という声が、これは真宙と天音、両方の口から洩(も)れた。③ちょっと気まずそうに頬をかきながら、柳くんは「勉強と部活は、またちょっと違う感じだし。」と続ける。
「うちの高校、物理始まるの二年からだから、一年の部を決める段階でもう物理のセンスがあるかどうかなんて、わかってるヤツいないと思うよ。ただ、研究とか観測が楽しいからやってるだけで。」
「楽しい……。」
真宙が呟く。さっき聞いたばかりの宇宙線の話も、十年計画で自分の代では完成するかどうかがわからない人工衛星の話も、まだしっかりとその楽しさがイメージできない。途方に暮れたような真宙の呟きを拾って、柳くんが「うん。」と頷(うなず)いた。
「物理の研究とか観測って、どういうところが楽しいですか。」
天音が聞いた。柳くんが、今度もまた「うーん。」と長く考え込んだ。やがて、答える。
「答えがないことじゃないかな。」
「答えが、ない？」
「うん。答えがないっていうか、正確に言うと、もうすでにある答えに向けて確かめるための実験とか観察をするんじゃなくて、今、自分たちが観測してることが答えそのものになっていくっていうか。まだない答えを探してるって気持ちが強くて、そこが楽しいのかもしれない。」
柳くんが言って、腕時計を見る。仲間の方を振り返り、「そろそろ行くね。」と言った。
「もし興味あるなら、今度、宇宙線クラブのオンライン会議、覗(のぞ)いてみる？」
「え！　いいんですか？」
「うん。画面上で見学するくらいなら、たぶん大丈夫。真宙通じて、連絡するね。」
「ありがとうございます！」
「じゃ、また。」
真宙通じて連絡する――というのは、昔のサッカーチーム時代の名簿を見て連絡してくるという意味だろうか。母さんからあれこれ詮索されたら面倒だな……とちょっと思った。だけど、真宙も天音とともに、トラックを駆けていく柳くんの後ろ姿をただ見送る。
たぶん、④柳くんの答えが衝撃だったからだ。
（辻村深月(つじむらみづき)著『この夏の星を見る』による。一部省略がある。）

問1 ①中井、何言ってんの？　と当惑して、思わず空を見上げる。　とありますが、このときの真宙（まひろ）の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア　天音（あまね）がいきなり「ウチュウセン」と言い出したことにとまどい、宇宙線は肉眼で見ることができないことを確認しようと空を見渡している。

イ　天音がいきなり「ウチュウセン」と言い出したことにどう対応していいかわからず、本当に宇宙船が飛んでいるのかと目を空に向けている。

ウ　天音がいきなり「ウチュウセン」と言い出したことに恥ずかしさを感じ、天音や柳（やなぎ）くんの顔を見ることができずに天を仰いでいる。

エ　天音がいきなり「ウチュウセン」と言い出したことにがっかりしてしまい、子どものようなことを口にする天音から目を背けている。

問2 ②真宙の中で、体温がすっと下がっていく感覚がする。　とありますが、このときの真宙の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア　宇宙線や物理部の活動について天音や柳くんが興奮して話をしていたので、話題が変わったことで少しずつ落ち着きを取り戻して、嬉（うれ）しく感じている。

イ　宇宙線という自分にはわからない話がずっと続いていたので、真宙にもわかる柳くんの中学生の頃のことに話題を変えることができて、ほっとしている。

ウ　それまで宇宙線や物理部について話していたのに、突然柳くんの中学生の頃のことという天音にはわからない話を始めてしまったことを反省している。

エ　思わず陸上部のことを聞いてしまったあとで、柳くんが陸上をやっていたことは聞いてはいけなかったのかもしれないと思い直し、不安になっている。

問3 ③ちょっと気まずそうに頬をかきながら　とありますが、柳くんはなぜ気まずかったのですか。**物理部**、**センス**の二つの言葉を使って、十五字以上、二十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

真宙と天音に、［　　］15 から。（25）

問4 ④柳くんの答えが衝撃だったからだ。とありますが、このときの真宙の様子について次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、**答え**、**スポーツ**の二つの言葉を使って、三十字以上、四十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（7点）

真宙は、柳くんが［　　］ことに、衝撃を受けている。

問5 本文の内容や表現について述べた文として**適切でないもの**を、次の**ア**～**オ**の中から**二つ**選び、その記号を書きなさい。（5点）

**ア** 「真宙は驚いた」のように作品中の登場人物ではない第三者の客観的な視点に立つ語り手によって物語が展開される一方、「なんでオレが、ショック受けてるんだろう」のように真宙の心情が地の文でも表現されている。

**イ** 「まるでそこに宇宙線が見えるみたいに空を見上げる」や「途方に暮れたような真宙の呟き」などの比喩を用いることで、登場人物の行動や心情がわかりやすく表現されている。

**ウ** 「真宙は、えっと目を見開いた」という表現によって、天音が初対面の柳くんに気軽に話しかけている様子に真宙が戸惑いや驚きを感じていることを印象づけている。

**エ** 「腕組みをして長く黙り込んだ後で」や「柳くんが、今度もまた『うーん。』と長く考え込んだ」という表現によって、柳くんが真宙や天音の質問に真剣に答えようとしていることを印象づけている。

**オ** 本文は、真宙、天音、柳くんの三者がやりとりをする「現在」の場面と、真宙が小学校時代の自分を回想する「過去」の場面とで構成されており、真宙の長年にわたる柳くんへの憧れの強さが表現されている。

## 2 次の各問いに答えなさい。（24点）

問1 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

(1) 試供品を無料で頒布する。
(2) 彼を懐柔して味方にする。
(3) 炎天下の作業でかいた汗を拭う。
(4) 大臣がシュウニンのあいさつをする。
(5) アヤういところで難を逃れた。

問2　次の――部「ない」と同じ意味（用法）であるものを、あとのア～エの文の――部から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

わたしは、あまり漫画を読まない。

ア　今日は何もしないで、のんびりしましょう。
イ　友人にお願いをしたら、頼りない返事だった。
ウ　マラソンに挑戦したいが、長距離を走ったことはない。
エ　この部屋は、エアコンが壊れていて涼しくない。

問3　次の――部の熟語の構成（成り立ち）が**他の三つと異なるもの**を、ア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

ぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達（ア）した頃、降ってわいた災難（イ）、メロスの足は、はたと、止まった。見よ、前方の川を。昨日の豪雨で山の水源地は氾濫し、濁流（ウ）とうとうと下流に集まり、猛勢一挙に橋を破壊（エ）し、どうどうと響きをあげる激流が、こっぱみじんに橋げたを跳ね飛ばしていた。

（太宰治（だざいおさむ）著『走れメロス』による。）

問4　中学生のAさんは、委員会活動で調べてわかったことについて、全校集会でスピーチを行うことになりました。このスピーチに使う次の 原稿 を読んで、あとの問いに答えなさい。

原稿

昨日の給食の献立は、ご飯、牛乳、ふりかけ、焼きシシャモ、さといものそぼろ煮、ほうれんそうのおひたし、かぶのとろみ汁でした。皆さんおいしく食べましたか。先日配った給食委員会新聞ではシシャモについての特集を掲載しましたが、今日は給食の野菜について調べたことを発表します。

ここで問題です。昨日の献立の中には、何種類の野菜の名前が入っていたでしょうか。答えは、さといも、ほうれんそう、かぶの三種類です。これらの野菜がよく給食で使われるのは、埼玉県でたくさん採れます。地産地消という言葉を聞いたことがありますよね。現在、さまざまな理由で地産地消の取り組みが行われています。

地産地消とは、どのような意味でしょうか。

Ⅰ

地産地消には、地域を活性化する効果が見込まれています。また、消費者にとっては生産者との結びつきが強くなることで、ニーズに合った農産物が増えたり、安心で新鮮な農産物

が手に入りやすくなったりする効果もあります。

さて、昨日の献立の野菜のうち、さといもとほうれんそうは、二〇二一年産の野菜において、埼玉県の収穫量が全国一位となったものです。かぶも全国で二位でした。埼玉県は、県内で採れる多くの農産物を、たくさんの人に知ってもらったり、活用してもらったりするための取り組みをしています。例えば、県内の施設での野菜収穫体験や、埼玉県産の農産物を活用した加工食品の宣伝などです。

給食委員会としては、地産地消の取り組みの紹介から、地域の野菜の魅力を感じてもらい、地域の活性化につなげてほしいと思っています。給食に使われている野菜は、地域の生産者の思いがこもっていますから、毎日の給食をしっかり食べましょう。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

(1) 次のア～エは、原稿 中の空欄 Ⅰ に記入されていた文です。文脈が通るように並べかえ、その順に記号で書きなさい。（3点）

ア　その地産地消の現状について、次の二点を調べてみました。

イ　次に、埼玉県産の農産物を普及させる取り組みについても調べました。

ウ　まず、地産地消の効果について調べました。

エ　それは「その地域で生産された食材をその地域で消費すること」という意味です。

(2) このスピーチをする際のAさんの話し方として**適切でないもの**を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（2点）

ア　自分の感じたことを強く伝えるために、言葉の抑揚や間の取り方を意識しながら話す。

イ　最初から最後まで手元の原稿から目を離さずに一定の速度で話す。

ウ　話の内容が伝わっているかどうか、聞き手の反応を確かめながら話す。

エ　伝えたい内容や相手に応じて、話す速度や声の大きさなどを工夫して話す。

(3) Aさんは＝＝部の文が不自然であると考え、それを推敲しました。推敲後の文中の＝＝部と空欄の関係が適切になるように、空欄 Ⅱ にあてはまる言葉を書きなさい。（3点）

（原稿 中の文）

これらの野菜がよく給食で使われるのは、埼玉県でたくさん採れます。

（推敲後の文）

これらの野菜がよく給食で使われるのは、埼玉県でたくさん Ⅱ 。

## 3　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（26点）

「循環型社会」「シェアリング経済」「持たない暮らし」。日本社会で目にするこれらの用語には、ＩＣＴ（情報通信技術）などの利用を通じて不用品を交換したり、※遊休資産へのアクセスを可能にしたり、特定のモノへのオープンアクセスを実現することで、限られた資源を有効活用するとともに、資本主義経済の進展で失われた「つながり」やコミュニティを再興する意図が込められている。本章では、こうした議論が基盤とする「個人と個人のあいだのモノの融通・共有」とそれによる「持たない暮らし」とは異なる世界観で成り立っている、東アフリカに位置するタンザニア社会の「持たない暮らし」を提示したい。

欧米諸国や日本の人びとが捨てた不用品は、タンザニアを含む発展途上国に輸出され、モノの寿命限界までリユースやリサイクルされてきた。タンザニアでは現在でも、中古車や中古家電、古着など中古品が人びとの消費生活において重要なウェイトを占めている。タンザニアの消費者が購入した中古品は、彼らの隣人や友人、故郷の親族へ贈られたり、生活に困窮して転売されたり、金銭を借りる担保にされたりする。贈られた中古品がさらに別の誰かに贈られたり、担保として友人に預けたモノが買い戻されたりもする。誰かがひとたび所有したモノが贈与や転売を通じて別の誰かの所有物となる。それが何度も繰り返されることで、モノは「私のもの」「誰かのもの」「さらに別の誰かのもの」「ふたたび私のもの」などと変化を遂げながら、社会の中で循環してきたのだ。①こうした循環が起きるのは、ある面では新品の商品を購入する能力が不足しているからであり、豊かな者から貧しい者へと富が分配されることを是とする社会規範があるからである。またある面では、手に入れた財を転売したり投資したりしながら、「自転車操業的」に営む※インフォーマル経済がひろく展開しているからである。

いずれの場合でも重要なのは、「私のもの」が「他の誰かのもの」に変化する際、そのモノは、それを一時所有した「私」から切り離された無色透明の②「モノ」になるわけではないことである。

人類学者のアルジュン・アパデュライは、モノの価値は、使用価値だけでなく、モノの社会的履歴に伴って変化する交換価値によっても決まることを論じた。私たちの身近な例で説明すると、わかりやすいだろう。たとえば、ある骨董品店で売られている万年筆は、すでに書くという行為には使えないとしよう。だが文豪に使用されていたという万年筆の社会的履歴によって、そのモノは非常に高価なものになっている。もし、その万年筆の履歴に恋人から文豪へ贈られたというロマンスが発見されれば、その価値はより高くなるだろうし、万年筆を購入した富豪が次々と不審な死を遂げたという履歴が明らかになれば、呪われた万年筆としてその価値は下がるだろう。

同じことは、文豪による所有に限らずに生じる。車などの日用品から美術品を含め、多くのモノや財は「個人化・人格化」と「商品化」を行き来している。それぞれの文化的な履歴には、そのモノにまつわるさまざまな関係性が埋め込まれている。そして、ひとたび誰かのものとされたモノが再び商品化されるとき、そのモノは、そのモノの履歴に関係する人びとの※アイデンティティを帯びることもあるのだ。

元の所有者や関係者のアイデンティティがモノに付帯するという考え方は、人類学ではとりわけモノが贈与される場面において強調されてきた。そのような議論の端緒は、マルセル・モースの『贈与論』における※マオリの贈り物の霊「ハウ」をめぐる謎だ。よく知られている通り、モースは、贈り物に返礼が起きるのは、贈り物にとり憑いた霊「ハウ」が、元の持ち主のもとに戻りたいと望むからであるとするマオリのインフォーマント（情報提供者）の説明にこだわった。モースは、マオリの法体系において、モノを介して形成される※紐帯は「魂と魂との紐帯」であり、「何かを誰かに贈るということは、自分自身の何ものかを贈ることになる。」と論じた。なぜならモノには元の持ち主、贈り

手の魂が宿り、元の持ち主は贈り物を介して受け手に影響力を発揮しているからである。

贈り物に持ち主の人格が宿っていること自体は、私たちにも経験的に理解できることである。

たとえば、③日本では、恋人からもらった手編みのマフラーを誰か別の人に贈ったり売ったりすることは忌避されがちだ。それは、そのマフラーにマフラーを編んだ恋人の思い、すなわち魂が込められているように感じられるからだろう。恋人がデパートで選んだ商品でさえ、そこに「彼／彼女らしさ」、すなわち贈り手の人格が憑いていると感じ、不要になっても捨てるのを躊躇（ちゅうちょ）する人は多いだろう。別れた恋人の贈り物を捨てるという行為が、そのモノとの関係だけでなく、そのモノを媒介にして恋人への執着と決別するという儀式になるのも、モノが元の持ち主のアイデンティティやその持ち主と受け手が共有する何がしかを帯びていると考えるからだろう。

こうした贈り物に与え手の人格の一部が宿っているといったヒトとモノとの分離不可能な関係を論じてきた人類学は、「個人」が所有物に対して排他的な権利を有するという、個人の「身体＝労働」を基盤とする私的所有論の考え方に対して異議を提示してきた。

モノの社会的履歴、そしてモノに付帯して循環する持ち主たちの人格は、④所有（私的所有）と他者への贈与や分配を対立するものとみなす議論に再考を促す。すなわち、法的な権利とはべつに、贈り物をエージェント※にして受け手に働きかけ続ける元の所有者は、その贈り物の所有権を放棄したと言えるのだろうか。そのモノはいまだ持ち主に帰属しているのではないか。「譲渡不可能」な贈り物とはいかなるもので、それはいかにモノとヒトとの関係を取り結んでいるか。これらの問いは必然的に、さまざまな角度から「自己」とは何かをめぐる問いも喚起してきた。

たしかに、タンザニアのインフォーマル経済従事者のあいだでも共同（集団）所有か私的（個人）所有か、あるいは所有権が認められているか否（いな）かといった慣習的、法的なルールだけでなく、何をどこまで他者に分け与えたり、他者と共有したりするか、いかにして譲り渡すのを回避するかをめぐるミクロな攻防がモノの所有をめぐる大きな関心であることは間違いない。だが、明らかに自身に所有権がある場合でも、「譲ってくれ。」「共有させてくれ。」という要請を心情的あるいは社会道徳的に断ることができず、モノや財を手放すことは多々ある。そうした事態は、「私的所有の失敗」のように見える。

しかし、先述したように、元の所有者がモノを媒介として財を譲り受けた者たちに働きかけていることを前提とすると、⑤私的所有に失敗することを「損失」とみなし、贈与や分配を「利他的な行為」であるとみなす必然性はどこにもない。そのような所有と贈与を対置させる見方は、身体のなかに閉じ込められた自己、自己と身体との同一視を前提とした考え方に過ぎない。

（小川（おがわ）さやか著「手放すことで自己を打ち立てる――タンザニアのインフォーマル経済における所有・贈与・人格」による。一部省略がある。）

（注）※遊休資産……活用されていない資産。

※インフォーマル経済……行政の指導の下で行われていない経済活動。

※アイデンティティ……ここでは、個性や独自性、自分らしさのこと。

※マオリ……ニュージーランドのポリネシア系先住民。

※紐帯（ちゅうたい）……二つのものを結びつけるもの。

※エージェント……代理人。

問1 ①こうした循環 とありますが、その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア タンザニアでは、モノの融通や共有が進んでおり、ＩＣＴを利用した不用品の交換などを通じて限られた資源を有効活用しているということ。

イ タンザニアでは、資本主義経済の進展で失われた「つながり」やコミュニティの再興を通じて、モノの融通や共有を推進しているということ。

ウ タンザニアでは、商品を購入する能力が不足している人びとが多いため、モノは誰かからの贈与によってはじめて入手可能になるということ。

エ タンザニアでは、モノは寿命限界までリユースやリサイクルされ、贈与や転売が繰り返されることで様々な人の所有物へと変化していくこと。

問2 ②モノの価値は、使用価値だけでなく、モノの社会的履歴に伴って変化する交換価値によっても決まる とありますが、「モノの社会的履歴」に伴って「交換価値」が変化するとはどういうことですか。次の空欄にあてはまる内容を、**商品化**、**付帯**の二つの言葉を使って、三十五字以上、四十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（7点）

モノは、［　　］［　　］35［　　］45 ということ。

問3 ③日本では、恋人からもらった手編みのマフラーを誰か別の人に贈ったり売ったりすることは忌避されがちだ。 とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア もらった手編みのマフラーには編んだ人の人格が憑いていると感じ、マフラーを手放すことは編んだ人との関係性を断つことを意味すると考えるから。

イ もらった手編みのマフラーには編んだ人の「彼／彼女らしさ」があり、マフラーを捨てることで贈り手の人格そのものを否定することにつながるから。

ウ もらった手編みのマフラーには編んだ人の思いが込められており、マフラーを手放すことは贈り手への裏切りであり慣習的にも法的にも不当なものだから。

エ もらった手編みのマフラーには編んだ人の魂が宿っており、マフラーを介して形成された「魂と魂との紐帯」によりそもそも手放すことができなくなるから。

問4 ④所有(私的所有)と他者への贈与や分配を対立するものとみなす とありますが、この考え方を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（4点）

ア 私的所有されたモノは、持ち主である個人に所有権があり贈与や分配ができないのに対し、他者から贈与や分配されたモノは、さらに別の他者に贈与や分配ができるという考え方。

イ 私的所有されたモノには、持ち主である個人が排他的な権利を有しているのに対し、モノを他者に贈与したり分配したりしたときには、その権利が失われてしまうという考え方。

ウ 個人がモノを所有するには、身体による労働が必要であるのに対し、他者から贈与や分配されたモノは、労働せず得られたゆえに、真に私的所有したとは言えないという考え方。

エ 個人がモノを所有するには、身体のなかに閉じ込められた自己が必要になるのに対し、他者に贈与したり分配したりするときには、自己と身体の同一視が前提になるという考え方。

問5 ⑤私的所有に失敗することを「損失」とみなし、贈与や分配を「利他的な行為」であるとみなす必然性はどこにもない。 とありますが、筆者はなぜこのように考えるのですか。次の空欄にあてはまる内容を、**媒介**、**帰属**の二つの言葉を使って、四十字以上、五十字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（7点）

私的所有に失敗したり、モノを贈与したり分配したりしても、

40

50

と考えることができるから。

## 4

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（……の左側は口語訳です。）（12点）

一休和尚は「たき木」という所に時々住んでおられた。そのあたりの村々は近衛殿の御領地であったが、家老の左近が農民から年貢を強引に取るので、農民たちはこれを嘆いていた。農民たちが近衛殿への訴状を考えていたところへ、一休がやってきた。

百姓共一休を請じ、「此訴状御書き下されよ。」とたのみければ、「やすき事也、いかなる
農民たち

ことぞや。」とのたまへば、「しかじかのことにて侍る。」と申しければ、「長々しき状までも

いるべからず。是をもちて近衛殿へ捧げよ。」とて歌よみてやらせたまふ。

世の中は月にむら雲花に風近衛殿には左近なりけり

とよみて、これをつかはされければ、村々の百姓、「①＿＿＿＿かかる事にては、免おほく給はること思ひも
年貢のお許しを多くくださる

よらず。」と申しければ、一休「ひらさら此歌のみ捧げよ。」と仰せられて帰り給へば、②＿＿＿＿おのおの
ひたすら

せんぎしけれ共、本より土のつきたる男共なれば、一筆よみかく事ならざれば、ぜひなく、
集まって相談したが　しかたなく

かの歌をささげければ、近衛殿御覧じて、「是はいかなる人のしける。」と仰出されける。
おっしゃった

百姓申しけるは、「たき木の一休の御作にて候。」と申せば、「その※放者ならでは、

かかる事いはん人は今の世に覚えず。」と興じ給ひて、③＿＿＿＿おほくの免を下されけるとなり。
今の世にはいない

（『一休ばなし』による。）

（注）※放者……ふざけたことをする人。

問1 ①かかる事 とありますが、ここでは誰にどうすることを指していますか。次の空欄にあてはまる内容を十五字以内で書きなさい。（3点）

| |
|---|
| |

こと。

問2 ②おのおの とありますが、これは誰のことを指していますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

ア 百姓共　　イ 一休　　ウ 近衛殿　　エ 左近

問3 ③興じ給ひて とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、**すべてひらがな**で書きなさい。（3点）

問4 次は、この文章を読んだあとの先生とAさんの会話です。空欄 I にあてはまる内容として最も適切なものを、あとの**ア**～**エ**の中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

先　生「文章中に『世の中は月にむら雲花に風近衛殿には左近なりけり』とありますが、これはどのようなことを伝えようとしたものなのでしょうか。」

Aさん「上の句には、『月』と『むら雲』、『花』と『風』という組み合わせが表現されています。これをふまえて下の句『近衛殿には左近なりけり』を考えると、近衛殿が領地を治める上で、 I ということを伝えようとしたものだと考えられます。」

先　生「そのとおりです。一休はその意図が、近衛殿にはわかってもらえるという確信があったのでしょうね。」

**ア** 農民たちと左近は公平に扱われなければならない

**イ** 左近が反乱の動きをみせているので警戒するべきだ

**ウ** 左近が農民たちを苦しめることを責めないでほしい

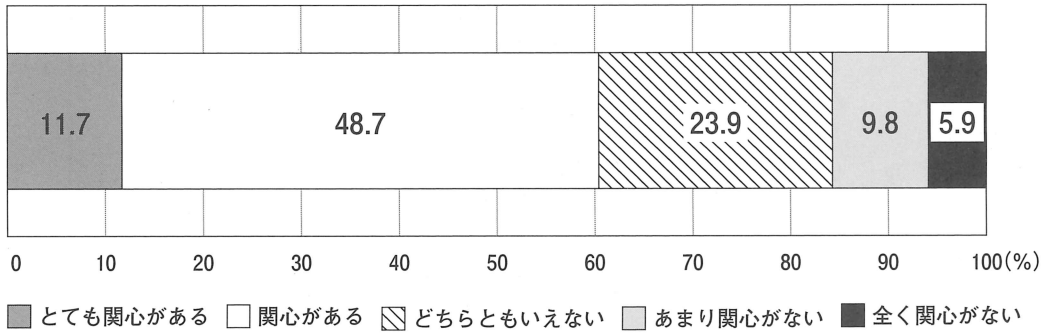
**エ** 農民たちを苦しめる左近の存在が妨げになっている

**5** 次の資料は、「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の推進」について、主に県内在住者を対象に調査し、その調査の結果をまとめたものです。

国語の授業で、この資料から読み取ったことをもとに「持続可能な社会を築くためにわたしたちができること」について、一人一人が自分の考えを文章にまとめることにしました。あとの（注意）に従って、あなたの考えを書きなさい。（12点）

**資料**

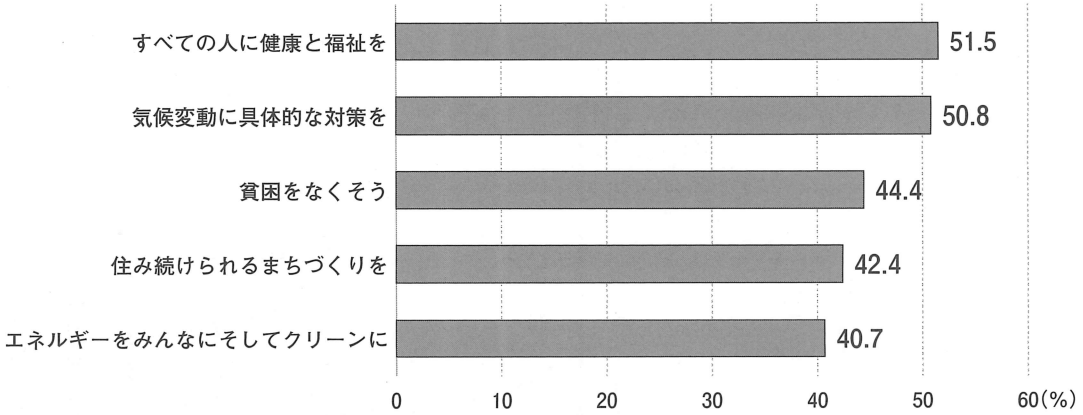
① **あなたは、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）に関心がありますか。**




② （「とても関心がある」「関心がある」「どちらともいえない」「あまり関心がない」と答えた人に対し）

**あなたは、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）のどの分野に興味がありますか。**

**【複数回答・上位５項目】**




埼玉県　第208回簡易アンケート「埼玉県におけるＳＤＧｓの推進について」（令和４年度）から作成

（注意）

(1) **二段落構成**とし、第一段落では、あなたが資料から読み取った内容を、第二段落では、第一段落の内容に関連させて、自分の体験（見たこと聞いたことなども含む）をふまえてあなたの考えを書くこと。

(2) 文章は、十一行以上、十三行以内で書くこと。

(3) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。

(4) 題名・氏名は書かないで、一行目から本文を書くこと。

**（以上で問題は終わりです。）**

# 令和六年度　採点の手引（国語）その１

（注意）
・採点に際しては、「採点上の注意」とともに、資料文や設問を十分検討すること。
・問題５（作文）については、「評価の観点」及び「採点上の注意」に基づき、細部の採点基準を作成して採点すること。

| 問題 | 正答 | 配点 | 採点上の注意 |
|---|---|---|---|
| 1 | | | |
| 問1 | イ | 4 | |
| 問2 | エ | 4 | |
| 問3（例） | 物理のセンスがあるから物理部に入ったと思われた | 6 | ○内容・表現に応じて、部分点を認める。<br>○「物理部」「センス」のうち、いずれか一語しか使われていない場合は４点を減じ、二語とも使われていない場合は、点を与えない。 |
| 問4（例） | スポーツの世界を離れて、答えがないことが楽しくて物理部で研究や観測をしている | 7 | ○内容・表現に応じて、部分点を認める。<br>○「答え」「スポーツ」のうち、いずれか一語しか使われていない場合は４点を減じ、二語とも使われていない場合は、点を与えない。 |
| 問5 | （ウ）と（オ） | 5 | |
| | | 26 | |
| 2 | | | |
| 問1 | | | |
| (1) | はんぶ | 2 | |
| (2) | かいじゅう | 2 | |
| (3) | ぬぐ（う） | 2 | |
| (4) | 就任 | 2 | |
| (5) | 危（うい） | 2 | ○著しく字形の乱れているものには、点を与えない。 |
| 問2 | ア | 3 | |
| 問3 | ウ | 3 | |
| 問4 | | | |
| (1) | エ→ア→ウ→イ | 3 | |
| (2) | イ | 2 | |
| (3)（例） | 採れるからです | 3 | ○内容・表現に応じて、部分点を認める。 |
| | | 24 | |
| 3 | | | |
| 問1 | エ | 4 | |
| 問2（例） | 元の所有者などのアイデンティティが付帯することにより、再び商品化されるときに価値が変わる | 7 | ○内容・表現に応じて、部分点を認める。<br>○「商品化」「付帯」のうち、いずれか一語しか使われていない場合は４点を減じ、二語とも使われていない場合は、点を与えない。 |
| 問3 | ア | 4 | |
| 問4 | イ | 4 | |
| 問5（例） | 元の所有者がモノを媒介として受け手に働きかけているならば、そのモノはまだ元の所有者に帰属している | 7 | ○内容・表現に応じて、部分点を認める。<br>○「媒介」「帰属」のうち、いずれか一語しか使われていない場合は４点を減じ、二語とも使われていない場合は、点を与えない。 |
| | | 26 | |
| 4 | | | |
| 問1（例） | 近衛殿に一休の歌をさげる | 3 | ○内容・表現に応じて、部分点を認める。 |
| 問2 | ア | 3 | |
| 問3 | きょうじたまいて | 3 | |
| 問4 | エ | 3 | |
| | | 12 | |

令和六年度　採点の手引（国語）その２

| 問題 | 評価の観点 | 配点 | 採点上の注意 |
|---|---|---|---|
| 5 | 1　課題と関連する内容<br>○資料から読み取ったことをもとにして自分の考えが書かれているか。<br>○自分の体験をふまえて書かれているか。 | 12 | ○採点は「評価の観点」に従い、12点からの減点法で行う。<br>○資料から読み取ったことをもとにして自分の考えが書かれていなければ、6点を減ずる。<br>○自分の体験（見たこと聞いたことなども含む）をふまえて書かれていなければ、6点を減ずる。 |
| | 2　文　章<br>○文章としてまとまっているか。また、段落や構成に注意して書かれているか。<br>○指示された文章の長さであるか。<br>○文脈（主・述の照応など）、用語などに不適切なところはないか。 | | ○二段落構成で書かれていなければ、4点を減ずる。<br>○二段落構成で書かれているが、第一段落に、資料から読み取った内容が書かれていなければ、2点を減ずる。また、第二段落に、第一段落の内容と関連して自分の体験をふまえて考えが書かれていなければ、2点を減ずる。<br>○内容の程度に応じて、1～6点を減ずる。<br>○不適切な程度に応じて、1～6点を減ずる。 |
| | 3　表　記<br>○文字・語句・くぎり符号・仮名遣いなどの表記上の誤りや不適切なところはないか。<br>○原稿用紙の正しい使い方に従っているか。 | | ○誤りや不適切なところの多少に応じて、1～4点を減ずる。 |
| 配点合計 | | 100 | |